

三内丸山通信

最新の研究成果まとまる

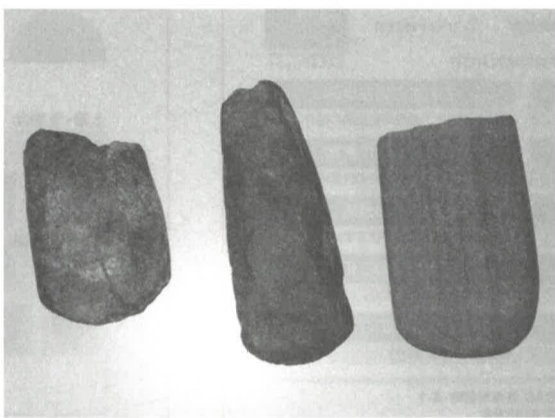
特別研究推進事業 研究報告

特別研究推進事業は、三内丸山遺跡や縄文文化を学際的に解明するため、研究者を公募して行う事業です。今年度は、5つの研究が行われ、その成果がまとまりました。

石斧の産地と流通

合地信生氏（北海道斜里町立知床博物館）は、三内丸山遺跡出土石斧の産地及び流通経路を調べました。

その結果、石斧は花崗閃緑岩、青色片岩、緑色片岩で作られており、構成している鉱物を分析したところ、青色片岩は北海道の神居古潭峡谷、緑色片岩は北海道日高地方の額平川流域より運ばれた事が明らかとなりました。また、緑色片岩は縄文時代前期～中期にかけて長く使われ、花崗閃緑岩と青色片岩は縄文時代中期の利用が急に多くなっていることがわかりました。さらに、岩石産地周辺の遺跡調査から、石斧を製作した遺跡と石斧が増加する時代との間には、密接な関係があると推測されています。



三内丸山遺跡から出土した石斧

ウルシ利用の調査

吉川純子氏（古代の森研究舎）は、縄文時代の東北地方北部におけるウルシの利用を調査しました。青森県内の縄文時代前期～中期の廃棄層から出土したウルシ属の内果皮の多くはウルシであることがわかりました。その中には炭化した内果皮も出土するため、これらの果実は利用後に廃棄されたと思われます。また、

ウルシの果実からは良質なロウが抽出できるので、縄文時代に果実からロウを採取し利用していた可能性も考えられると推測されています。

集落の変化とメカニズム

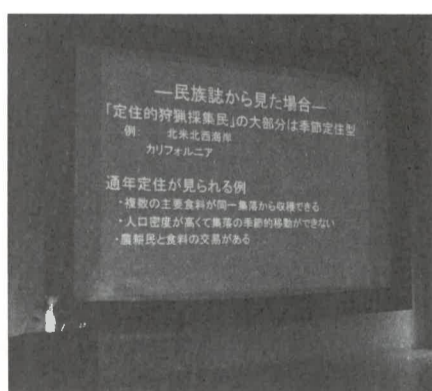
羽生淳子氏（カリフォルニア大学バークリー校）は、世界の狩猟採集民研究の視点から、三内丸山における生業・集落・社会の特徴、および遺跡機能の長期変化の解明に役立つ資料を蓄積することを目的とした研究を行いました。県内の遺跡との石器の比較分析や、住居規模・土偶数・埋設土器数の時間的変化に関する分析、石器の破片数の密度からみた捨て場の機能に関する分析、種子以外の出土炭化物の分析を含めた食生活研究など、6つのプロジェクトを行いました。結果として、三内丸山遺跡における遺構、遺

物の時間的変化を詳細に分析して行くことにより、文化変化のメカニズムを解明する道が開けることを明らかにしました。

この他、赤沼英男氏（岩手県立博物館）は、土器型式の分類と、赤色顔料などを用いた塗装技術との関係を発表しました。また、河村日佐男氏（日本海洋科学振興財団むつ海洋研究所）は、木柱の放射性炭素（C-14）年代を測定して、伐採年代を推定しました。

遺跡報告会

3月20日（日）に、青森県総合社会教育センターで三内丸山遺跡報告会が行われました。報告会では特別研究の成果報告の他に、今年度の発掘調査報告や、昨年11月にドイツで開催されたシンポジウムの報告が行われました。参加者は報告者の発表を熱心に聞き入っていました。なお、特別研究成果の概要は、公式ホームページでもご覧になれます。



報告会のようす



三内丸山遺跡マスコットキャラクター「さんまる」

遺跡のご案内

- 遺跡の開園時間
9時～19時（4月～10月）
ただし、「遺跡内展示室」「展示遺構」の公開時間は、9時～18時
- ボランティアガイド定時説明
1回目は9時15分から
その後は10時から1時間ごと
- （4月29日～5月8日は30分ごと）
最終は16時から
- 交通手段
青森市営バス
JR青森駅から「免許センター行き」三内丸山遺跡前で下車

- ※時刻表は「三内丸山遺跡 公式ホームページ」に掲載されています。
- 4月から開園・開館時間を延長します。春風が心地よい遺跡をぜひご覧下さい。
- ガイド・体験工房のお申し込みは

- 縄文時遊館内
- 三内丸山遺跡応援隊
- TEL 017-766-8282



特別史跡 三内丸山遺跡 公式ホームページ

トップページのリニューアル
と
重要文化財写真集の公開



トップページ

三内丸山遺跡公式ホームページのトップページをリニューアルしました。遺跡の象徴である大型掘立柱建物を大きく配置してあります。また、「TOPICS」を目立つようにし、最新情報を分かりやすくご案内します。さらに、各メニューについての説明を掲載すると同時に、ジャンル別に分けることによって、知りたい情報がより分かりやすく見つけられるようになりました。



重要文化財写真集

重要文化財に指定されている遺物の中から、代表的なものを選んで閲覧できるようにしました。各遺物の説明が表示されるほか、サムネイル写真をクリックすると、より大きな写真が表示されます。まるで手に取るような感覚で、遺物をご覧になれます。

最新情報展
発掘調査成果

「平成16年度の発掘調査成果」を遺跡内展示室で開催しています。

今年度は、集落北西の掘立柱建物跡の調査（第27次調査）と集落北東の貯蔵穴の調査（第28次調査）を行いました。第27次調査では、掘立柱建物跡の柱穴を再確

もっと詳しく



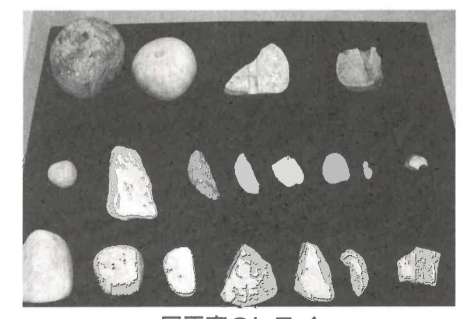
展示室!!

「交流と交易」

交流・交易のコーナーでは、北海道産・新潟県佐渡産・長野県霧ヶ峰産などの黒曜石や、新潟県糸魚川産のヒスイといった、遠い産地から運ばれた遺物を展示しています。

黒曜石の石器を調べるとその形などから、遠い産地のものは加工されて持ち込まれた傾向にあるようです。しかし、ヒスイは完成品だけではなく、未完成のものや原材料と考えられるものも出土していることから、三内丸山で加工された可能性が高いと考えられます。

三内丸山の縄文人は、ヒスイを自分たちで加工することに、何か特別な意義を感じていたのかも知れません。



展示室のヒスイ